

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《**図画工作(図画工作)**》

※詳細については、資料Ⅱ(図工-3～図工-6)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	つながる思い
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「くふうさん」というキャラクターの言葉で、形や色、方法や材料を知って工夫することができるように示している。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「ひらめきさん」というキャラクターの言葉で、試したり、見つけたりして、考えることができるように示している。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「こころさん」というキャラクターによる言葉で、楽しく活動し、他の児童とかかわることができるように示している。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第1・2学年上「こころのはなをさかせよう」では、6年生への感謝の思いや、入学してくる新1年生への歓迎の思いを表す題材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第5・6学年上下「つながる造形」では、技術の発達と表現の広がりや、中学進学や将来の自分の姿を想像する活動が示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3・4学年下「学校もりあげマスコット」では、学校全体を楽しませたり、掃除を手伝ったりするものをつくる題材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第3・4学年下「へんてこ山の物語」では、児童同士でアイデアを出し合い、発想の能力を高め合う活動が示されている。 □ 他教科との関連では、第5・6学年下において、社会科の歴史学習と関連させた「龍を見る」という鑑賞題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、第1・2学年上の「まなびのしりょう『じぶんのさくひんにだいめいをつけよう』」では、題名を付けると、制作時の思いが伝わることを示している。 □ 各学年とも「みんなのギャラリー」のコーナーを設定し、我が国の伝統的な文化や伝統行事などで見られる作品、工芸作品が掲載されている。 □ 第3・4学年上「へん身だんボール」では、つくったものを身に付けて全身を動かす題材が設定され、作りだした作品で楽しむ活動につながっている。 □ 小中学校間の円滑な接続に関して、第5・6学年下「つながる造形『中学校生活に向けて』」では、中学生と活動したり中学生の作品を鑑賞したりする様子が示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5・6学年上「Myキャラが動き出す」では、オリジナルキャラクターをつくり、情報機器を扱って動画をつくる題材が掲載されている。 □ すべての題材名の上に材料や用具がイラストと文字で示され、事前に準備をしておくものが、児童にとって理解しやすいように工夫されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材に、資質・能力の3つの柱に基づく「学習のめあて」が示され、めあてに対応する「ふり返り」を設定して掲載している。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材の題材名と主文が、題材の活動内容をイメージできるように示され、一人ひとりの造形的な見方・考え方を働かせた活動や作品が掲載されている。 □ 各題材名の上に、「ここでつかう主な材料や用具」がイラストと文字で示され、それらを使った多様な表現方法や作品が例示されている。 □ 第3・4学年下では、鑑賞活動から表現活動へ関連付け、作家の表し方のイメージの違いを自分の作品づくりに生かす「絵から聞こえる音」という題材が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の各内容(造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する)の題材が、同じような割合で設定されている。 □ 児童がどのような造形活動をするのか理解しやすいよう、目次に題材の主なめあてをキャラクターで、内容(造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞)を色と形で示している。 □ 配色やフォントでユニバーサルデザインが採用されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名 ≪ 図画工作(図画工作) ≫

※詳細については、資料Ⅱ(図工-3～図工-6)を参照

発行者の略称	日文	書名	見つけて 広げて
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、各題材に児童の感覚や行為を大切にした目標設定を「手のひらマーク」を用いて示している。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、各題材に児童が思いや考えを基に構想し、創造していくことを大切にした目標設定を「ハートマーク」を用いて示している。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各題材に児童が主体的に取り組む態度についての目標設定を「ふたばマーク」を用いて示している。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第5・6学年下「水の流れのように」では、「手で見る展覧会」が紹介され、盲学校の児童生徒との作品を通じた交流を掲載している。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、5・6年下「平和をつなげるかたち」では、表現には、見る人に平和や人権を考えるメッセージを伝える力があることを示している。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3・4学年上「みんなとつながる」では、「校内で」「野外で」「地域で」「家で」様々な人との造形活動を通じた交流を掲載している。 		
3 内容と構成	<p>≪ 教科・種目共通部分 ≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第3・4学年上「あの日あの時の気持ち」では、友だちと対話しながら表し、発想の能力を高め合う活動が掲載されている。 □ 他教科との関連では、第5・6学年下において、国語科(書写)と関連させ「墨と水から広がる世界」という墨を使って絵に表す題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、第3・4学年下の鑑賞題材「ポーズのひみつ」では、作品を鑑賞しながら、メモを書き込んだり討論したりする活動が紹介されている。 □ 各学年とも「教科書美術館」のコーナーが設定され、我が国の伝統的な文化や伝統行事などで見られる作品、工芸作品が掲載されている。 □ 第3・4学年上「ふき上がる風にのせて」では、吹き上がる風で動くものをつくり、動きを見てつくり変える題材が設定され、つくりだした作品で楽しむ活動につながっている。 □ 入学前と小学校の円滑な接続に関して、第1・2学年上の冒頭で、「いままでどんなことしてきたのかな」という言葉と共に、幼児の造形活動の写真を掲載している。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5・6学年上「形が動く絵が動く」では、ものを少しずつ動かしたり、形を変えたりして撮影し、動画をつくる題材が掲載されている。 □ すべての題材の最後に「気をつけよう」と「かたづけ」の欄があり、児童が安全面や片付けへの意識づけができるように工夫されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材に、資質・能力の3つの柱に基づく「学習のめあて」が示され、めあてに対応する具体的な児童の姿を掲載している。 <p>≪ 各教科・種目独自の観点 ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材において、造形的な見方・考え方を一人ひとりが発揮している姿を、活動の姿の随所に吹き出しの言葉を使って示している。 □ 各題材ページの左下に、「学習で使う主な用具」がイラストで示され、それらを使った多様な表現方法や作品が例示されている。 □ 第5・6学年下では、鑑賞活動から表現活動へ関連付け、作家ごとに異なる表し方に気付き、自分の表現に生かす「この筆あと、どんな空？」という題材が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の各内容(造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する)の題材が、同じような割合で設定されている。 □ 児童がどのような造形活動をするのか理解しやすいよう、目次に題材の内容(造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞)を色とマークで示している。 □ 配色やフォントでユニバーサルデザインが採用されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《図画工作（図画工作）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
開隆堂	キャラクター「くふうさん」によるアドバイスの言葉を示して、「知識・技能」の習得を図っている。 (例) 第1・2学年上14～15ページ「チョッキンパツでかざろう」→くふうさん「はさみはからだのしょうめんてつかおう。」 (例) 第1・2学年下13ページ「ふしぎないきものあらわれた」→くふうさん「クレヨンが絵のぐをはじくよ。」
日文	題材ごとに手のひらマークを示し、見つけたり工夫したりするめあてが示されている。 (例) 第1・2学年上12～13ページ「ちょきちよきかざり」→手のひらマーク「きってできるかたちをみつけ、くふうしてつくる。」 (例) 第1・2学年下16～17ページ「ふしぎなたまご」→手のひらマーク「おもいにあうかたちやいろを見つて、くふうしてあわす。」
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るため、キャラクター「ひらめきさん」によるアドバイスの言葉を示している。 (例) 第3・4学年上14～15ページ「ふくろの中には、何が・・・」→ひらめきさん「ふくろの中はどんな世界にしようかな。」 (例) 第3・4学年下12～13ページ「木々を見つめて」→ひらめきさん「感じたことから表したいことを見つけられたかな。」
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るため、題材ごとにハートマークを示し、感じたり考えたりするめあてが記載されている。 (例) 第3・4学年上10～11ページ「カラフルフレンド」→手のひらマーク「ざいりょうを組み合わせたかんじを見つけ、くふうしてつくる。」 (例) 第3・4学年下26～27ページ「わすれられない気持ち」→ハートマーク「表したい様子を思いうかべ、どのように表すのか考える。」
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
開隆堂	キャラクター「こころさん」によるアドバイスの言葉を示して「学びに向かう力・人間性等」の涵養を図っている。 (例) 第5・6学年上21ページ「わたしのおすすめ」→こころさん「あなたのおすすめを形と色で伝えよう。」 (例) 第5・6学年下26～27ページ「みんなのお話始まるよ」→こころさん「伝えたいことを形と色で表そう。」
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養を図るため、題材ごとにふたばマークを示し、活動の中で楽しんでするめあてが記載され、学びを生活や社会に生かすための活動後のふり返りの言葉を、ふたばマークが輝くようなマークで示している。 (例) 第5・6学年下8～9ページ「絵の具スケッチ」→ふたばマーク「小さな紙に、よいと感じた場所やものをかくことを楽しむ。」→ふたばマークが輝くようなマーク「身の回りには絵に表したい場所がいっぱいあったよ。」

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
開隆堂	製作途中やできあがった作品を共に見たり、思いを伝え合ったりしている写真が随所に掲載されている。 第5・6学年上、45ページに、パラリンピックの選手のための陸上競技用車いすが掲載されている。
日文	製作途中やできあがった作品を共に見たり、思いを伝え合ったりしている写真が随所に掲載されている。 第5・6学年上、2ページに、アール・ブリュットの作品「電車」が掲載されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
開隆堂	参考作品だけではなく、製作途中の写真が掲載され、吹き出しにも友達とコミュニケーションをとりながら、自分の表現につなげられるような言葉が随所に書かれている。
日文	参考作品だけではなく、製作途中の写真が掲載され、吹き出しにも友達とコミュニケーションをとりながら、自分の表現につなげられるような言葉が随所に書かれている。

③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
開隆堂	自分自身や自分を取りまく環境をふり返り、よりよく生きるための題材や活動例が掲載されている。 (例) 第5・6学年下、44～45ページ、「平和と希望の願いをこめて」では、平和への願いをこめた作家の活動例や、地域の復興等に関わる子どもたちの活動例を紹介している。
日文	造形活動を通して、自己を見つめ直したり、社会とかかわったりできるような題材や活動例が掲載されている。 (例) 第5・6学年下、52～53ページ、「つくるって楽しい」では、アーティストの作品づくりよせる思いや考え方を紹介している。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
開隆堂	共同して活動していたり、対話していたりする学びの姿が、随所に取り上げられている。
日文	作品をつくりだす過程で、他者への積極的な言葉かけや他者との頻繁な交流の様子が、吹き出しを用いて随所に掲載されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
開隆堂	主に大切な学習のめあてごとに題材を設定し、巻頭の見開きページを使って1年間を見通せるように示されている。題材と他教科との関連が「あわせて学ぼう」として随所に示されている。
日文	資質や能力に関わる3つの目標をもとに、表現の各内容と鑑賞が1年間にまんべんなく設定され、「もくじ」に示されている。題材と道徳との関連がわかるように「ふくろうマーク」を設定し、随所に示されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
開隆堂	作品だけではなく、題名やその理由、工夫した点の解説などから、互いの表現のよさを言語活動を通して感じ取ることができる活動を取り上げている。
日文	全題材を通して、自分の作品を友だちに紹介するなど、児童の言語活動をしている様子が、写真や吹き出しの言葉で随所に掲載されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実を資する工夫や配慮	
開隆堂	水墨画や屏風など、表現や鑑賞を通して、わが国や外国の伝統文化に触れられるような題材が設定されている。地域の伝統行事や祭りの中の形や色に着目した写真が掲載されている。
日文	盆栽・焼き物・屏風・浮世絵・水墨画など、伝統的な芸術作品に触れられるようなコーナーが設定されている。古くから伝わる日本の伝統的な技法を伝えている。
⑤ 体験活動の充実を資する工夫や配慮	
開隆堂	作品を通して、社会に発信したり、外部から人を招いて造形活動をしたりする体験的な活動が紹介されている。学年が上がっても、同じ材料に繰り返し触れる機会を設定している。
日文	材料や場所とかかわる題材を取り上げ、全身の感覚を働かせる体験的な造形活動を紹介している。学年が上がっても、同じ材料に繰り返し触れる機会を設定している。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
開隆堂	図画工作の学習が中学校の美術科や技術・家庭科などの学習につながることを示されている。
日文	幼児期の造形活動の経験を想起させる題材や、中学校の技術・家庭へつながるような題材が示されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
開隆堂	第5・6学年上「Myキャラが動き出す」では、オリジナルキャラクターをつくり、情報機器を扱って動画をつくる題材や、デジタルカメラやタブレットを使ったり作品をプログラミングで動かしたりする題材が掲載されている。
日文	第5・6学年上「形が動く絵が動く」では、ものを少しずつ動かしたり、形を変えたりして撮影し、動画をつくる題材が掲載されている。インターネットの活用方法と留意点、著作権について示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
開隆堂	表現するときに、技能面で必要な情報が得られるように「造形の引き出し」というページが設定されている。
日文	表現するときに、技能面で必要な情報が得られるように「使ってみよう 材料と用具」というページが設定されている。
⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
開隆堂	全学年に共通するキャラクターを、各題材に登場させ、学習のめあてを伝えている。安全に活動するために気を付けることが、枠を設定し、随所に書かれている。
日文	全学年に共通するマークを、各題材名横の黒板内に表記して、学習のめあてを児童に伝えている。材料や遊具を扱うときの注意事項や片付けについて、マークを用いて示している。
⑩ 児童が造形的な見方・考え方を働かせながらつくりだす喜びを味わえるように、表現及び鑑賞の内容や題材は適切に取り上げられているか。	
開隆堂	どの題材においても、形や色に着目しながら、発想を広げ、造形活動をしている多様な活動例を示している。キャラクター「くふうさん」の学習のめあてに、形や色について取り上げている。
日文	どの題材においても、形や色に着目しながら、発想を広げ、造形活動をしている多様な活動例を示している。キャラクター「ちろたん」の言葉に、形や色について取り上げている。
⑪ 児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、表現及び鑑賞の題材に、工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	様々な材料や用具、表現方法を選択することを繰り返して表した作品が随所に紹介されている。
日文	様々な材料や用具、表現方法、活動場所を使って表された作品が随所に紹介されている。
⑫ 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるようにキャラクター「くふうさん」の言葉が示されている。表現しながら相互に鑑賞している姿が随所に掲載されている。
日文	〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるようにキャラクター「ちろたん」を設定している。表現しながら相互に鑑賞している姿や対話が随所に掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
開隆堂	「造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する」それぞれの題材が、偏ることなく適切に配分されている。
日文	「造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する」それぞれの題材が、偏ることなく適切に配分されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
開隆堂	水性ペンで書き込んでもはじかず、油性ペンで裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。
日文	水性ペンで書き込んでもはじかず、油性ペンで裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
開隆堂	題材名のフォントが統一されていて、児童に理解しやすい配慮がされている。
日文	題材ごとに題材名の表し方を変え、児童が造形活動への興味や関心がもてるように工夫している。

【参考】

① ○神奈川の事例・作品：地域の美術館などの利用や連携（内容の取扱いと指導上の配慮事項⑧）	
開隆堂	第1・2学年上に横浜市の「サンセットパレード」の写真が掲載されている。神奈川県の実例・作品、美術館などの利用や連携の実例が、全学年に取り上げられている。
日文	第3・4学年上に相模原市の「さがみ風っ子展」の写真が掲載されている。神奈川県の実例・作品、美術館などの利用や連携の実例が、第3・4学年上巻以上に取り上げられている。

② ○URL、二次元コード等の掲載の有無						
	1・2年 上	1・2年 下	3・4年 上	3・4年 下	5・6年 上	5・6年 下
開隆堂	有	有	有	有	有	有
日文	有	有	有	有	有	有

③ ○教科書の重量（単位はグラム）						
(g)	1・2年 上	1・2年 下	3・4年 上	3・4年 下	5・6年 上	5・6年 下
開隆堂	213	214	214	214	213	214
日文	251	245	246	246	246	247